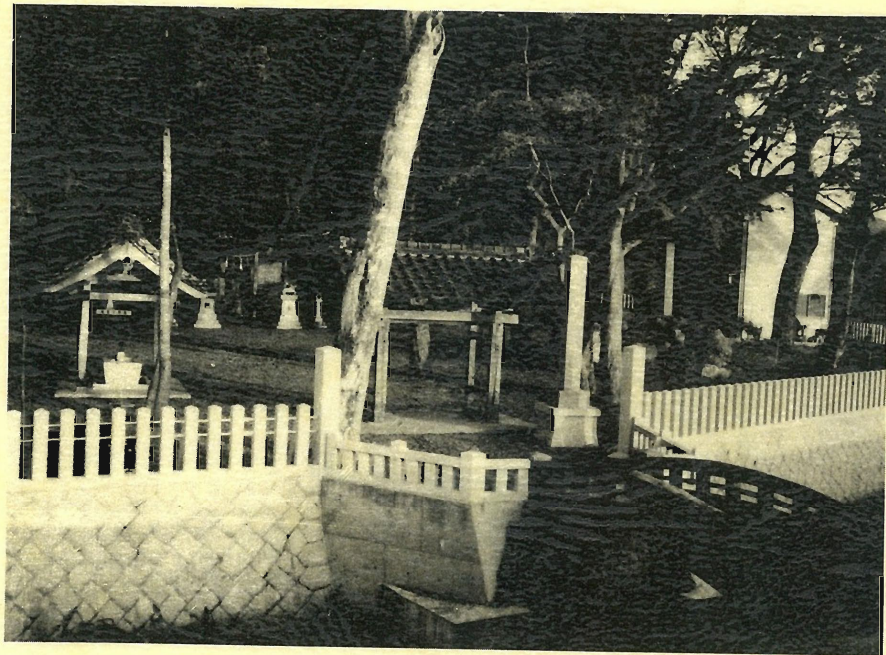


鷺巣の歴史探訪



鷺 巣 区
鷺巣区町民憲章・青少年育成推進委員会

目次

はじめに

一

一 鷺巣の沿革

二

二 鷺巣が生んだ偉人達

三

三 鷺巣における学校教育の歴史

一一

四 鷺巣の神社と寺院

一三

五 祭礼・盆踊り等

一九

六 薬師山

二七

七 交通機関

三一

八 鷺巣にみられる動物・植物

三五

九 日清戦争から太平洋戦争までの戦没者

三九

一〇 その他

四一

付表

鷺巣区内案内図

四七

案内図の説明

四九

あとがき

五〇

はじめに

鷺巣をより理解し、鷺巣の自然環境のなかで、先人達のたゆまぬ努力によって今日まで伸展してきた過去を学び、ここに生まれた文化や伝統、人情に接し、今後の鷺巣の発展に資して頂ければ幸いです。

この資料が、より多くの区民の皆様、特に青少年の皆様に読んでいただけることを願ってやみません。

終りに、本冊子刊行にあたり、編集や執筆にご尽力を賜わりました皆様はもとより、資料提供にご協力下さいました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成四年一〇月

鷺 巣 区 長 田 中 和 義

鷺巣区町民憲章・青少年育成推進員

古 川 保 信

野 村 幹 雄

松 本 建 樹

一 鷺巢の沿革

二

鷺巢の名は養老孝子源丞内の子孫が白山権現の夢のお告げにより大木に登り、鷺の巢の中から一二個の卵を取ったところ、すべて金銀の宝珠に変わったという伝説（養老寺縁起）にあり、里人にも伝えられ、それが鷺巢の地名のもとであるといわれています。

天平年間（西暦七二九年から七四九年）に創建されたという多芸七坊の一つ薬師山光明寺（当時は小倉山光明寺と言ったとも云われている）が織田信長の兵火（元亀年間「西暦一五七〇年頃」）にあい、その時鷺巢白山神社の隣に薬師堂を建ておまつりしたとも伝えられ鷺巢の名が出てきます。

「平治物語」には、平治の乱で敗れた源義朝が都落ちした下りに、「鷺栖の玄光」が舟で義朝を護送した記事がみえます。
室町初期に当地に土着した土岐頼忠の子右馬頭之康は、鷺巢を号しています。（尊卑分脈）

寛文五年（西暦一六六五年）の美濃国本巢郡鷺巢村改帳があり、当時の専明寺の鐘銘に本巢郡鷺巢村とあり、また、「美濃国諸旧記」にも鷺巢六郎光敦について「本巢郡鷺巢の城主、これは太守政房の六男にして云々」とあるなど本巢郡の飛地であったものとおもわれます。

江戸期く明治二二年の村名は、美濃国多芸郡で、はじめ高須藩徳永氏領、寛永五年（西暦一六二八年）から幕府領、同一〇年大垣藩領とかわり 村高は、「慶長郷帳」四七二石余、「正保郷帳」五〇一石余、「天保郷帳」七七三石余、旧高旧領「五〇二石余、同帳では、他に伊勢神宮領五二石余と書かれておりますことから、鷺巢の一部が伊勢神宮領であり、神屋田という小字名のところが神宮領でありました。

明治二二年からは現在の大字名になり、はじめ上多度村、昭和二九年からは養老町の大字となっています。

二 鷲巢が生んだ偉人達

鬼面山谷五郎

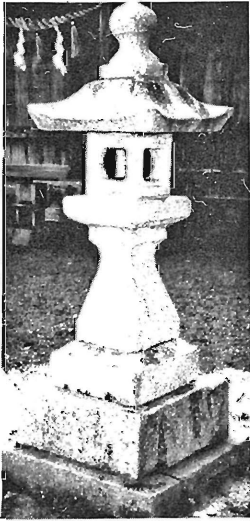
鬼面山谷五郎は、文政九年（西暦一八二六年）父新七母トラの次男新一として、鷲巢南組八一〇番地に生まれました。

その後、一家は酒醸造のため養老寺に移り住みました（西暦一八三四年）鬼面山の九歳時です。その頃の逸話に、母がお客様に作ったトロロ汁と二升のご飯をペロリと食べて皆を困らせたことがあったと云われています。

大人になって益々力持ちになった彼は、長浜の石屋に働きにいましたが、二二歳の時大人三人がやつと運べる大石を楽々と担いでいるのを京都相撲の浜碓丈右衛門に見出だされ京都相撲界に入りました。

京都で三年間修業し、嘉永四年（西暦一八五一年）江戸相撲の武隈文右衛門部屋に入り、翌五年二月には東幕下二一枚目（当時は十両制度がなかった）で浜碓と名乗り初土俵を踏みしました。

その後どんどん出世し三二歳の時阿波の蜂須賀侯に召し抱えられ鬼面山谷五郎と改名しました。慶応元年（西暦一八六五年）大関、明治二年二月横綱翌三年春、四勝一敗で中日から休み引退しました。引退するまでの取り組み総数一九一のうち一四三勝・二〇四敗・一六引分け・三預けで、最優秀成績が七回という輝かしい記録を残しましたが、翌明治四年七月二三日四七歳の若さで世





一朱を貰った農家を記載した書類

を去りました。
四

明治二八年刊行の相撲談義によれば「鬼面山谷五郎は、深川黒江町西念寺に葬られている」とあり。埼玉県狭山市史編纂係によれば、市内入間川二丁目徳林寺の武隈家墓石に「釈誠寛信士明治四年七月二三日東京相撲一三代横綱鬼面山谷五郎行年四三歳」と記された墓があります。

なお、文久元年小結の時鷲巢に帰り父田中新七の墓を建て、白山神社に常夜灯一對を寄付しました。また、庄右衛門の「飢饉に付鬼面山より金十両差登せ割賦帳」が垂井の太田三郎氏がおもちと聞きお尋ねしますと、鷲巢の農家へ鬼面山からもらった十両を庄右衛門外一名立ち会いで一朱づつ分け与えたと記された前記書類がありました。

鷲巢では、毎年七月の最終の日曜日に専明寺で、鷲巢鬼面山谷五郎顕彰会主催により区民総出で追悼会を行い鬼面山の遺徳に忍んでいます。

鬼面山谷五郎の体格 身長 六尺一寸五分（一八六センチ）

体重 三九貫 （一四六キログラム）



逆さ馬の画

鷲栖玄光

鷲栖玄光は、鷲巢に住んでいた人です。美濃国古代人物誌に「内記平太夫行遠の二男、多芸郡鷲巢住義朝を護送せる人なり」と記されています。また、平治物語には「養老寺の住職、鷲の巢の玄光」とあります。

平治元年（西暦一一五九年）平治の乱で平家に敗れた源義朝は、源氏の根拠地関東へ落ちるため、途中美濃国青墓の大炊兼遠おおいかねとくの家に身を寄せました。

大炊は源氏と関係が極めて深く青墓は美濃における源氏の根拠地であったからです。

義朝は、尾張国内海おさだの長田忠致たけむねの家に向うこととし、鷲巢村にいた鷲栖玄光にたのみました。

玄光は、大炊兼遠の弟で武勇の誉れ高く、義侠心の強い人であつて、もと比叡山の僧兵であつたともいわれています。

玄光は、柴舟に義朝と三人の家来を隠し津屋川を下りましたが、途中平氏方が川の要所に関所を設けて下る舟を調べていました。玄光は機転のきく人物でその場をうまく言い逃れ内海の長田忠致の家に着くことができました。

長田忠致の裏切りで、義朝が殺害されたおり、玄光は義朝の家来の金王丸とともに長田忠致の家臣七・八人を斬り、馬を奪ってひきあげましたが、これまで一三度合戦に参加しましたが一度も敵に背を向けた事がなかった、この時も



鷺巣城跡

六

逆さ馬に乗って走ったと云われています。

その後玄光は、内海から帰り鷺巣で永住したと伝えられています。

鷺巣六郎と鷺巣城

鷺巣六郎は、土岐守護家九代政房の子で、政頼、頼芸、揖斐五郎光義など八人兄弟の六人目で美濃明細記には、「鷺巣六郎、石津郡鷺巣住」とあり、また美濃諸旧記には、「本巢郡鷺巣城主鷺巣六郎光敦云々」とあります。

「揖斐五郎光義は揖斐にいたが、鷺巣で死んだ」ともあります、また、鷺巣六郎は、かなりの勢力者であつたようです。

鷺巣六郎の城跡が何処にあるか分かりませんが、小字名に庄司屋敷とか堀の上があります。

なお、故田中義一氏から聞いた話によりますと、庄司屋敷にあつたと聞いております。



里伯翁の墓

里伯翁

里伯翁は、医者で近所の住人に勉強を教えていたと伝えられています。

南三昧に墓があり、亡くなられたのは、天保四年二月七日（西暦一八三三年）で八八歳と墓に書かれています。

なお、墓を建てた人は定かではありませんが墓には社中とあり、弘化二年二月（西暦一八四五年）に建てられています。

野村龍諦

専明寺に生まれ左京とも呼ばれていました。漢籍の造詣が深く、若くして文才をうたわれていました。近郷の子弟に四書、五経、左伝、史記、文章、軌範等を授け、その門に学ぶものは一一〇人に及びました。

明治二十四年七月二八歳で亡くなりました。

田中準二

明治法律学校を卒業後裁判所の判事になりました。大正五年退官して鷺巣に帰り岐阜地方裁判所所属弁護士となり、訴訟事件の弁護に尽くされました。

大正一三年六月四八歳で亡くなりました。

生前正五位勲六等に叙せられています。

田中 董

八

養老公園の開発と、養老鉄道（現在の近畿日本鉄道養老線）の開設に尽力されました。

晩年は、鋤雲館と号し漢詩をたしなめました。

昭和十一年 一月七七歳で亡くなりました。

中島 滋樹

明治二十四年東京教育会付属小学校教員速成伝習所を卒業後小学校訓導をされ、明治三十三年広幡小学校校長以降、退職されるまで養老郡内の校長を歴任されました。

職務特別勉勵につき県知事等から表彰を数多く授賞されています。

温厚誠実な方でコールマン髭を生やし道で逢うとなにか一言声をかけられる方でした。

昭和十九年十二月七六歳で亡くなっています。



植物採集時

田中少五郎

京都帝国大学を卒業後、県警察部長、農林省食品局長、佐賀・香川県知事さらに、四国地方行政事務局長官などを歴任されました。昭和二年願いにより本官を免ぜられた後、横浜市助役横浜商工会議所会頭等を務められました。

昭和四一年勲二等旭日中綬章に叙せられています。

昭和四二年一〇月七一歳で亡くなりましたが、葬儀は横浜で行なわれ、委員長には、藤山愛一郎氏がなられ盛大であつたそうです。

松本一郎

岐阜師範卒業後、小学校訓導となり、理科、動物、植物の教員免許に合格後、中等学校の教諭をされました。昭和三四年大垣北高等学校を最後に退職されています。

温厚誠実篤学の人で教え子達からも敬慕されていました。また、退職後も、同好者の指導と研究調査をすすめられました。

主な研究として「養老山の植物分布」「伊吹山の植物」「夜叉が池の植物」「金華山の植物」等があります。

昭和四四年一〇月六八歳で亡くなられています。



中島嘉樹

一〇

陸軍士官学校を卒業後、兵役につかれ、終戦時は陸軍大佐として連隊長をしておられました。古武士的な厳しさと、愛情で部下を指揮統率され部下から尊敬される人でした。

終戦後は、町会議員として町政に貢献されるとともに、鷺巣を誰よりも愛され、鷺巣のよき指導者でありました。特筆すべき事項は「滝谷水利問題の解決」「薬師山紛争の解決」「鷺巣白山太鼓保存会の創立」等数限りなくあります。

なお、七〇歳になられてから、日本画、漢詩などをたしなまれました。

昭和五三年一月八五歳で亡くなられています。

従二位 勲三等 功四級を叙せられています。

三 鷺巣における学校教育の歴史

寺小屋

江戸時代の終り頃は、寺僧や神主さん、お医者さん等が寺院か自宅で、読み、書き、そろばんを教えていました。幕府の政治は、「知らしむべからず、依らしむべし」といつて、武士の権力を以て治めていたので、学問をするのは、指導者階級に限られており、一般では、字の読める人は、少なかつたと思われます。

当時は次の方が寺小屋を開いてみました。

野村竜諦氏 (専明寺の住職)

専明寺

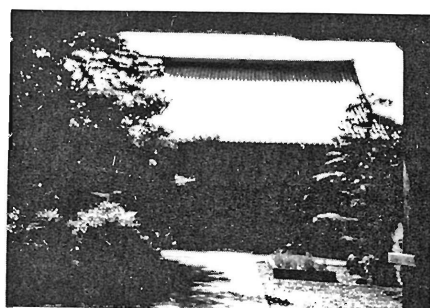
中島定平氏 (中島嘉樹氏の曾祖父) 自宅

竜門義校と八千代学校

明治になり封建制度と鎖国をやめ、文明開化することになったのです。

明治五年八月、「学事奨励に関する被仰書」によつて、全国同じ教育制度がされました。

明治六年四月 鷺巣村には、専明寺に竜門義校が開かれました。校下は、鷺巣白石の二ヶ村でした。同一〇年五月石畑村積流第一校と合併し校舎を鷺巣長屋野に建設し、八千代学校といたしました。校下は鷺巣、石畑、白石、明徳四ヶ村でした。





54年落成した校舎



24年落成した校舎



南海大地震で倒壊した校舎

鷺巣小学校 一二

明治一九年八千代学校を鷺巣尋常小学校及び鷺巣簡易小学校と名が変わりました。この学校は、明治二十四年の濃尾大震災で全壊したため再び別れて、専明寺にもどり鷺巣小学校として明治三十一年まで続きました。

上多度小学校

明治三十一年鷺巣尋常小学校及び鷺巣簡易小学校と小倉尋常小学校及び小倉簡易小学校が合併し上多度尋常小学校となりました。はじめは、小倉の民家借りて校舎としていましたが、同三十六年小倉村字古新田有尾村字荒子に校舎を建設しました。昭和二十一年一月二日南海大地震で北舎倒壊・南舎が半壊し使用不能となり村内七カ所で分散授業がおこなわれました。

鷺巣では、専明寺、鷺巣公民館を仮校舎として授業が行なわれました。

昭和二十三年三月、旧校地は地震、洪水に弱いことから移転問題が論議され栗田武雄氏の小倉の畑六反余提供があり、ここに移転することに決定されました。

昭和二十四年二月新校舎が落成しました。

昭和四八年創立百周年に当たり校地拡張、校舎施設設備の近代化をめざし大業が始まり現在の学校となったのです。

四 鷺巢の神社と寺院

神社

白山神社と紅葉

祭神は、イザナギノミコト、イザナミノミコト、菊理姫命であります。昔から「いのちの神」として仰がれています。

創建は、養老元年（西暦七一七年）だそうです。（中島氏宅の古文書）

三・四〇年前には、拝殿の左右に楠と棕の木の大木がありました、楠は枯れて芯のみでしたが、目通し六・七あり木の穴にお宮の掃除道具を入れていました。古老から、この楠に鷺が巢を作ったと聞いております。もう一本は、棕の木で後に書いています覗き仏があつた大木です。

これらの木から想像すると白山神社は養老元年創建がうなずけます。

秋には、境内のみじが綺麗に紅葉し近郊に無い美しさです。

また、平成三年御大典を記念し、境内の整備を行いました。

竜田神社と彫刻

祭神は、天御柱国神、豊受姫神であります。

竜田神社の社殿は、白山神社ご遷宮のおり今までの白山神社社殿を竜田神社の社殿としたものです。権現作りで社殿の彫刻（棟木を担いでいる）は、飛驒の匠の作といわれており、とても力強いよい作品です。



彫刻



境内の紅葉



秋葉神社 一四

終戦後、鷲巢に多く火災が発生しました、宮総代が氏子と相談し昭和二十四年火の神さんである静岡の秋葉神社の火之迦具土神を白山神社の境内にお祀りし氏子一同火の用心に努めています。

八幡神社と苔

祭神は、応神天皇、仲哀天皇、神功皇后であります。

棟札に天明六年（西暦一七八六年）正月拝殿造営、享和三年（西暦一八〇三年）御領内明細記にあります。

また、代参のお迎えする場所であります。

境内の美しい苔が、春から秋まで楽しめます。

燈明様（太神宮）

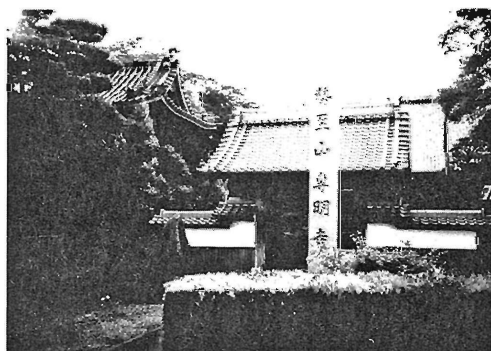
燈明様は、天保九年八月朔日（西暦一八三八年）氏子中で力をあわせて津屋川の土場に創建されました。

燈明様は、大いなる神に村の守護と、交通の安全、更に道標としての常夜燈として創建されたものと思われます。

代参で受けてきた神宮大麻一体を竹竿にさして竿石にくくりお祀りし、翌年の一月一五日の左義長に旧札を焼却する習わしがあります。



苔



覗き仏

覗き仏（延命地藏）

白山神社境内のむくの枯れた大木の根元に地藏尊が巻き込まれていました。故大倉重兵衛氏の夢枕にお地藏様がたたと聞き、一〇月六日の恒例の宮掃除のおりその木の根元を探したところ、地藏尊が巻き込まれていました、氏子総代、宮役員等で社殿を造りお祀りしています。

養老町の天然記念物に指定されています。

寺院

鷺巣の専明寺と光明寺には古い歴史があります。天平から天平宝字年間（西暦七二九年から七六四年頃）の奈良時代、養老山麓七ヶにわたって創建された多芸七坊（象鼻山別所寺、大威徳山竜泉寺、勢至山光堂寺、柏尾山柏尾寺、滝寿山養老寺、小倉山光明寺、福聚山藤内寺）の一つです。

多芸七坊は、はじめ法相宗でしたが、平安時代天台宗に改まりました。戦国時代（元龜年間、西暦一五七〇年頃）に兵火にかかって焼失したと伝えられています。

一六 勢至山専明寺

多芸七坊のときは、勢至山光堂寺といい、養老町勢至の日吉神社裏の台地にありました。

「七堂伽藍地にて、除地五三石であった」と専明寺記録にあります。光堂寺は寛正五年（西暦一四六四年）二月、住僧顕誓の時、兼寿に帰依し本願寺の末寺となり、勢至山専明寺と改めました。その後勢至は人口が減少したので寛永年中（西暦一六二四年から四四年）鷲巢に移転し現在に至っています。

なお、御本尊の阿弥陀如来立像は、鎌倉時代の安阿弥あんあみの作と云われています。

また、専明寺には、養老町指定の有形文化財絵画「証如上人御影しょうじょうにょしょうにん」一幅があります。

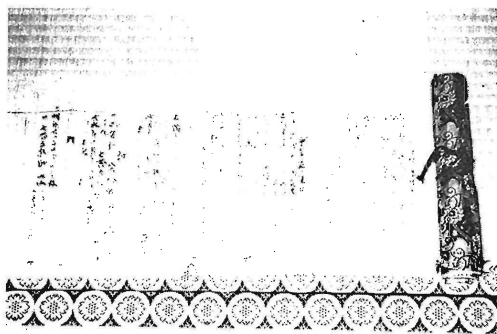
証如上人とは、天文元年（西暦一五三二年）の山科合戦、翌年の石山合戦時の本願寺の宗主であった人です。

専明寺に絵画があるのは、証如の天文日記に鷲巢六郎との交渉が記され、この因縁で御影が下付されたものと思われま

す。さらに、「鎧下名号」（親鸞聖人ご流罪のおりに書き残されたもの）一巻があります。これも、養老町の有形文化財書跡に指定されています。



証如上人御影



鎧下名号



ギリギリ



薬師山光明寺

多芸七坊のときは、小倉山光明寺といい、養老町鷺巣薬師山にありました。

光明寺は、天平年中（西暦七二九年から七四九年）に光明皇后の発願によって創建されたと伝えられています。

薬師山一円を寺領とし七堂伽藍もありましたが、前記の兵火で焼失しました。

この時の住僧一祐が本尊薬師如来を運びだし、車に積んで避難しました、小倉と鷺巣のわかれ道で小倉に行こうとすると車がギリギリと鳴って動かず、鷺巣へ行くこうとすると軽く動くので、これは薬師如来が鷺巣へ行きたいのだと思い鷺巣に向ったと云われています。その場所を今もギリギリと呼んでいます。

鷺巣では、薬師堂を建てて安置しましたが、安政元年（西暦一八五四年）に火災にあい再建されて現在に至っています。

本尊薬師如来像は、行基菩薩ぎょうきぼさつの作と伝えられていますが、薬師山事件中に何者かによって取り替えられ現在に至っています。

なお、本尊は土俗乳貰いの薬師といい、乳の出ない人が祈願をしますと乳が出ると云われています。

また、薬師堂を昭和一八年薬師山光明寺と改めました。

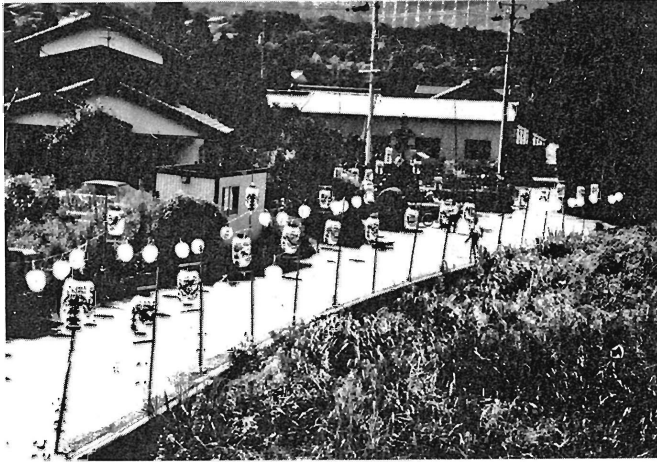


馬頭觀世音菩薩 一八

二〇年程前までは農家に農耕用の牛が飼われておりした。その牛の舌から血を取るのと、爪を切っていました。その場所を血取り場といい、こどもの国の南東の伊勢街道沿いにあり、そこに馬頭觀世音菩薩が祀られていました。

今は血取り場はなくなり、馬頭觀世音菩薩を専明寺の門前に移転しお祀りしています。

五 祭礼・盆踊り等



燈明祭り

九月一日に提灯を灯し、区民の安全と五穀豊穣を祈願します。

夜は、鷺巣白山太鼓と鷺巣白山太鼓土壌踊り等が盛大に行なわれます。

薬師祭り

九月一二日区民が光明寺で薬師如来に日頃の感謝をこめてお参りします。

白山神社祭礼

一〇月一〇日区民の安全と五穀豊穣を祈願します。（明治五年の「鷺巣村明細帳」には、白山宮祭礼は、八月六日とあり、八月六日のときもありました。）

祭礼の夜は、公民館に集まった氏子総代をはじめ、宮役員及び氏子が、先頭に一二灯（頭に掛けあん灯（「白山神社」とかく）に絵灯籠一二個を三段につけたもの）氏子総代、太鼓、宮役員、氏子、紅提灯を持ったこどもの順に金鼓と太鼓チンチンドンチンドンと打ちながらして神社に練り込みます、境内に近付くと鷺巣白山太鼓が、迎え太鼓でお迎えします。

氏子総代、宮役員等は社殿に整列し参拝します。参拝が終ると境内の絵灯籠、掛行灯に灯りが入り、祭は鷺巣白山太鼓で最高潮になります。



二〇 八幡さん祭り

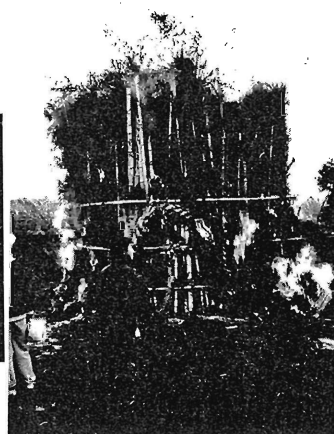
一〇月二一日白山神社から八幡神社まで白山神社同様に練り込みを行います。
 なお、明治五年の「鷺巣村明細帳」には、八幡宮祭礼は、八月一五日とあり、八月一五日のときもありました。

代参と伊勢迎え

昔から鷺巣は各班から代参者が、伊勢神宮にお参りしていましたが、昭和二年から静岡の秋葉神社に、さらに各社の本社である石川の白山比咩神社、王子の竜田神社・京都の石清水八幡宮へ、昭和三三年から四班に別れてお参りするようになった。

一月一五日伊勢への代参の宅で班のお迎えをします。昔から、お迎えにはトリノコ（餅米を卵型に握ったもの）と串差し（蜜柑、里芋、人参、竹輪、蒟蒻等を煮て竹の串に差したもの）を作り、お神酒を酌み交わしご馳走になります。

鷺巣全体でのお迎えは、八幡さんに集まり、トリノコと串差しをおさかなにお神酒を酌み交わし、ご弊を先頭に、伊勢音頭を唄い、お菓子をまきながら、燈明さん、白山神社へと練り込みます。



左義長と粥占い

左義長は、一月一五日、白山神社の境内に区内から集った門松や竹、藁で大きな束を作り、秋葉神社からのお下りの蠟燭で火をつけ古いお札を燃やします。

子供達は、書き初めに書いた「天筆さん」（天筆和合楽 地福円満楽 家内安全楽と書く）を竹竿の先につけて燃やします。

天筆さんが炎に吹き上げられて高く高く燃え上がる程、字が上手になると云われています。

なお、左義長の中心に豊年棒があります、この豊年棒がどちらに倒れるかによつて今年の作況を占います。また、豊年棒を細かく切り、それを屋根に上げておくくと雷が落ちないとも云われ、さらに残り火で家族の数だけ餅を焼き、その餅を焼き食べると病気にかからないとも云われています。

以前は、左義長が一四日に実施されましたので左義長の残り火でお粥かゆを炊き粥占いを行ないましたが、今は左義長が一五日となったため一四日深夜からお粥を炊き、畑作物と田作物それぞれ一三本づつの管（竹を薄く削る）を、田畑別に綴り煮え立った粥のなかに入れ、炊き終つて一・二時間置き粥と小豆の入った数を調べ作物ごとの作況を占います。その結果を半紙に書きお札として農家に配ります。

占いの方法は、竹の管に粥がいっぱい入っていると一〇歩、小豆が入っている



二二
と一粒につき一歩減らします。

（粥占いは、昔は青年団が行ないましたが今は同志会が行なっています。）

鷲巣白山太鼓

白山神社には古くから伝わる白山太鼓があります。

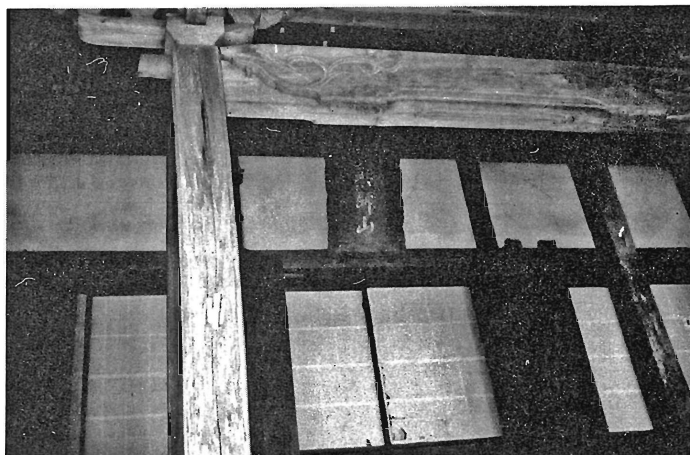
終戦後、後継者難で困っていましたが、白山神社氏子総代の故中島嘉樹氏のお骨折りで、故藤田恵吾氏が指導にあたり、氏子の青年が練習を始めたのが白山太鼓保存会ができたきっかけです。昭和五七年二月の県太鼓祭りで見にとまりその年全国太鼓祭りに国立劇場の舞台を踏みました。

昭和五六年二月養老町の無形民族文化財に指定されました。

さらに、平成三年一月「おんさい岐阜」県民運動推進優良団体として、県知事から表彰を受けました。

白山太鼓には、寄せ太鼓、迎え太鼓、でんがらかし、添え打ち、から打ち、中抜き、でんでこんこ等の打ち方があります。

今後、この無形文化財の太鼓を後世にどのようにして伝えていくかが課題であると思われます。



花祭り

お釈迦さまの誕生を祝う会です。光明寺に住職がいた時代には、レンゲ草の花等で綺麗に飾られた花御堂にお釈迦さまの像を祭り、頭から甘茶をそそいでお祝いします。お参りしたあと空瓶に甘茶を入れて貰い帰りました。

一二三夜（腹太鼓）

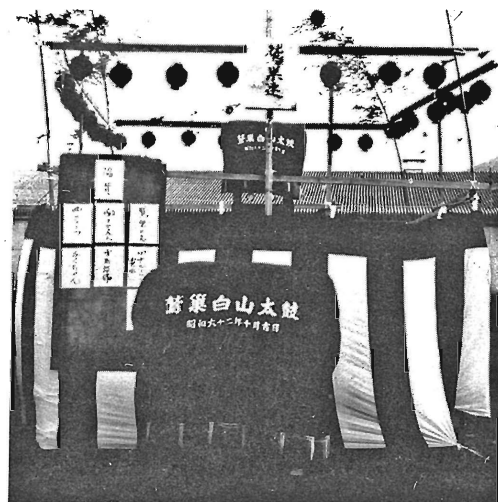
陰曆九月一三日の月を鑑賞する行事で枝豆を供えることから豆名月とも云います。今はすっかり絶えてしまいましたが、その夜は子供達が藁の束を縄でぐるぐると棒状に巻いたもの（藁鉄砲）で、隊を組み「九月節句の腹太鼓腹につかえてようたたかん」等を唄い各家の前で地面をたたき、祝儀を貰い歩きました。

なお、藁鉄砲で地面を叩いたときによく音の出るよう中心に里芋のずいきを入れるなど工夫したものです。

疱瘡おくり

昔疱瘡は、疱瘡神に祈れば、免れたり、軽くすむと信じられていました。種痘が行なわれるようになって、この習わしが続きました。

驚巢でも、子供が一歳になると「疱瘡に罹らないように」種痘が行なわれるようになってからは、「種痘が早く治るように」を願って、袈裟を紅白の縄で吊れるようにして、その上に赤飯のお握りと、紙に包んだ文銭を載せて、三辻等に吊



二四
してあったものです。

盆踊り

毎年お盆に、なかよしコートで、盆踊り大会を区主催で行なっています。

炭坑節、郡上おどり、養老音頭等を踊っていましたが、平成二年から鷺巣白山太鼓土壌踊りを復活し、区民一同和氣藹々と踊りが続きます。

土壌踊りは、昭和の初め頃までは、この地方で踊られていましたが、最近では踊られなくなつたので、昔の青年団の方々の指導で、鷺巣の土壌踊り「鷺巣白山太鼓土壌踊り」をつくりました。また、踊り方は誰でも踊れるよう簡単にし、歌詞も鷺巣自慢を入れて作詞しました。

「鷺巣白山太鼓土壌踊りの唄」

松阪越えて 今出たが (サーヨーヤトヤー)

何から言おうやら 申そやら

(サーヨーヤトヤーヨーヤーセー)

(以下唄ばやし略)

松阪越えて 今来たが ここら辺りは 孝子の里よ

そろたそろたよ 踊り子がそろた 白山神社の 氏子連

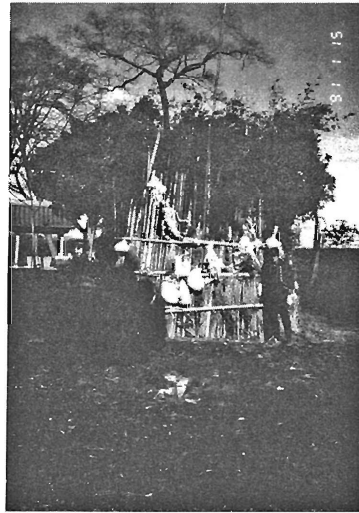
踊り上手で 唄上手 太鼓に合わせて お出ましょ

鷺巣玄光は たいしたものよ 義朝助けて 柴舟で



鷺巣自慢は 鬼面山 大江戸相撲で 横綱に
 おらが鎮守は 陽気な方で 唄って踊って 馬鹿さわぎ
 春はお山に 花吹雪 秋は黄金の 波がゆれ
 娘島田に 蝶々が止まる 止まるはずだよ 花じゃもの
 ことしや豊年 穂に穂が咲いて 道の小草も 米になる
 めでためでたの 若松様よ 枝も栄えて 葉も茂る

豊年棒



天筆さん

六 薬師山

本堂跡地

薬師山光明寺につきましては、寺院の項で述べてありますから見てください。

光明寺の本堂跡地は檀原の地蔵堂から百程登ったところの杉林の中になりました。

本堂跡地近くの谷から石仏や、五輪塔が多く出てきました。

有道^{うどう}崖^{がけ}

光明寺の僧が修業した所だそうです。本堂跡地から北西へ百程登った所の断崖絶壁の所を云います。

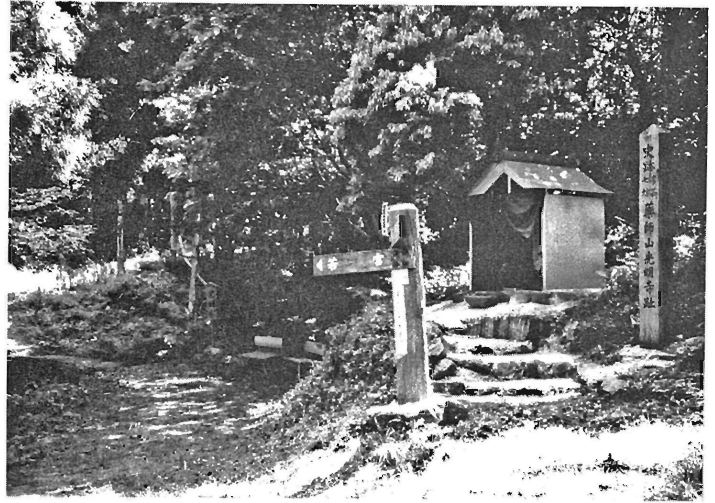
古墳

本堂跡地南東の薬師谷の南に小高く円い古墳らしきものがあります。

光明水

地蔵堂の南に、地蔵堂に参詣するときの手洗いと、東海遊歩道を歩く人の喉をうるおすため、薬師谷の滝付近から平成二年驚巢なかよし会が水を引きました。





木場

二八

檀原の地蔵堂辺りで、山で切り取った木材や、柴を集める所を木場といいます。

地蔵堂

薬師山で山芋を掘っていた故藤田恵吾氏が、高さ三〇㍎程の石地蔵を掘出し木場にお祀りしていました。平成元年長寿会の間から鷺巣区内の故郷おこしを進めようと、話がもち上がり光明寺跡のPRを行なうことを決定しました。

その一つとして、地蔵堂を建築することとなり、有志のお骨折りで立派に完成し、平成三年二月専明寺住職の読経で地蔵菩薩をお堂に安置しお祀りしました。

なお、本堂跡、有道崖、光明水の標柱は、この時に作り、現場に立てました。



薬師山の紛争

昭和三四年薬師山光明寺の住職と薬師山に関係のない人が鷺巣区民を訴訟しました。薬師山は一村総持ちであったので、有権者代表故中島嘉樹氏を中心に弁護士故下山田行雄に依頼し有権者一同紛争の解決にあたりました。

昭和四四年一二月大垣地方裁判所で「共有の性質を有する入会権」との判決があり、名古屋高等裁判所で「原判決支持」の判決、最高裁判所で控訴を破棄する通告が昭和四七年四月一日に受領し、一三年間の裁判で鷺巢の「共有の性質を有する入会権」の山であることが確定しました。

確定を記念し「共有の性質を有する入会権の山」であることを孫末代まで残すため石碑に刻み白山神社境内に建設しました。

この経費は、有権者からの拠出と区所有の土地（血取り場と野畔）を売却して賄いました。

三〇 マンガン坑

薬師山の南斜面にマンガンの鉱脈があり、昭和一〇年頃から掘り始めました。驚巢の人たちも人夫として相当数働きに行きました。

終戦後需要が減少したため廃坑になりました。

いまも坑道は残っています。



津島街道



みゆき街道



伊勢街道

伊勢街道

伊勢街道は、勢至・石畑・鷺巢の長屋野・三本松・こどもの国と小松林の間
西小倉・南小倉・船見・一色を通って伊勢に通じており、伊勢参りの旅人が草
鞋掛けで通った街道です。

みゆき街道（東海遊歩道）

みゆき街道は、日本武尊が伊吹山の神の征討に失敗し重傷の身で南下されたと
云われる街道で、今の東海遊歩道のことです。桜井・竜泉寺・養老・京ヶ脇
赤岩さん・薬師山・若宮を経て、鈴鹿から京都に通じている街道です。

津島街道

津島街道は、こどもの国の北東の角から北三昧の北を通り、新道橋から堤防
を通って津島に通じている街道です。

この街道は、明治中ごろに出来た街道で、最近までは県道でしたが、今は町
道となっています。

津屋川と土場と橋

荷物を運ぶ手段として、貨物自動車が登場するまでは、水上輸送が大きな役割をもっていました、このため当時は津屋川が大切な交通機関であったわけです。

鷺巣にも、舟を利用し薪等の売買を業としておられた方達があり二つの土場（舟付場）がありました。

帆船に、薪を積み桑名や名古屋方面へ商売に行かれたそうです。

駒野までは津屋川の底が浅いため、本船と、せどり舟とで行き、荷を本船に積み帆に風をはらんで桑名・名古屋に向ったそうです。

（駒野迄は、本船も竿で舟を動かしていました。）

その土場（舟付場）は、燈明さんの東と、寺橋にありました。

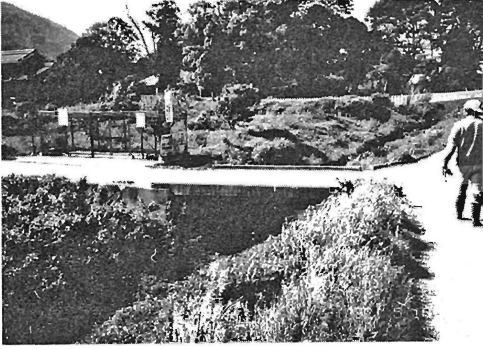
また鷺巣は、津屋川の東が田圃であるため、橋がたくさんかかっています。

宮橋（お宮にかかっている）、宮橋と名がつけました。）

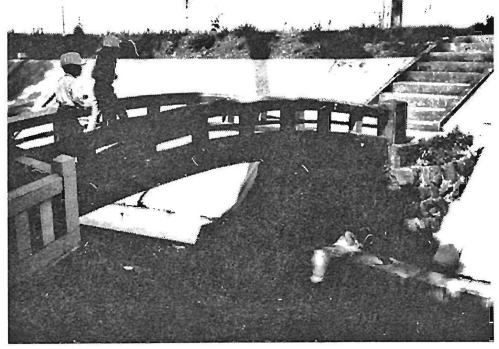
車屋橋（昔水車で精米する小屋があつたところに橋がかかっていたので、車屋橋と名がつけました。）

寺橋（お寺の東にあるところから寺橋と名がつけました。）

燈明橋（燈明さんの東にあるところから燈明橋と名がつけました。また土場にかかっていたので土橋とも呼ぶ人もいました。）

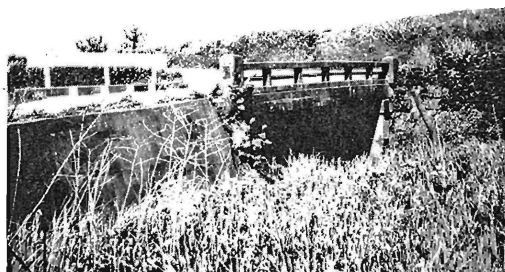


車屋橋

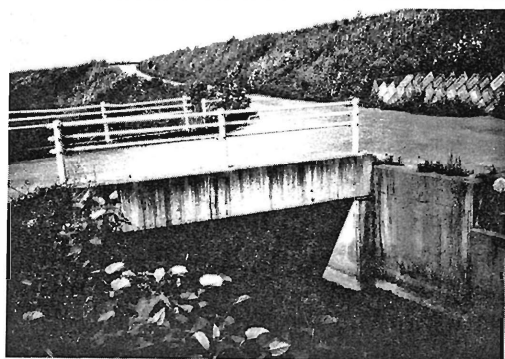


宮橋

寺橋



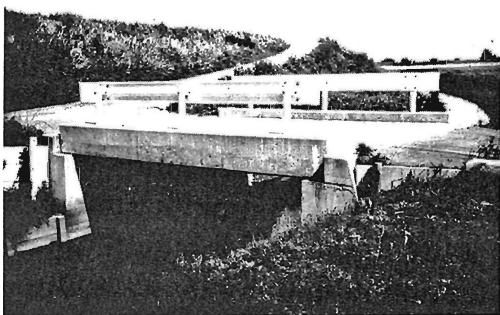
燈明橋



新道橋



新橋



新道橋（新しくできた津島街道にかけられたので新道橋と名がつけました。）
新橋（新しい橋を作ったので新橋と名がつけました。）



養老駅

三四

近畿日本鉄道の前身であります養老鉄道に汽車が走ったのは、大正二年七月三十一日です。最初は、養老・池野間が営業を開始し、大正八年に養老・桑名間と池野・揖斐間の営業を開始しました。

開設当時は、汽笛を鳴らし黒い煙をあげて走る姿に村人は驚いたそうです。反面、汽車に乗って、高田・大垣に行くことは大きな喜びでもあったそうです。運賃は、大正三年で養老・高田間は五銭、養老・大垣間は二一銭でした。この運賃は大人で、一二歳未満は半額、四歳未満は無料でした。

新道

通称新道と呼んでいる鷺巣の中を通っている道路は、県が大正八年以後につくった道です。当時としては砂利道の広い立派な道路でした。

なお、このころに鷺巣の各家庭に電気が灯るようになりました。

新しく県道、南濃・関ヶ原線（山麓道路）ができたため通称新道は町道となりました。

八

鷺巢にみられる動物・植物

動物

コガモ

一〇月の終り頃から三月頃まで、新橋の南のよしばに飛来する渡り鳥です、堤防の上から手を叩くと何百羽とコガモがよしの中から舞い上がる様は壮観です。

ハリヨ

鷺巢の湧き水のあるところに生息する魚です。体長は七センチから八センチで一四度から一八度の水温で砂質、又は、砂泥質の川に住んでいます。巢作り、泳ぎ方もおもしろいところから保護することが大切です。

植物

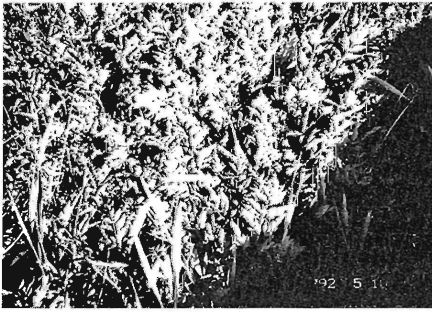
セリ

鷺巢の湿地にはえ、春の七草の一つで食べることができます。

昔、神屋田には綺麗な水が湧き出て、殊の外上質のセリが蜜生しおり鷺巢自慢の産物でありました。

ホテイアオイ

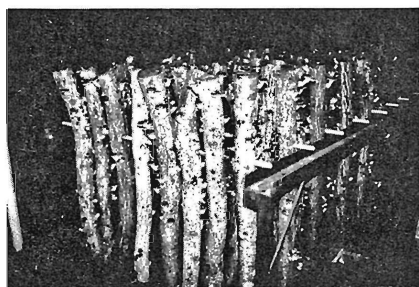
鷺巢の大河間の池に郡をなして生える夏草で、綺麗な紫色の花が咲きます。



セリ



コガモが飛来するよしば



水芋

水芋

三六

鷺巣白山神社近くの綺麗な水が湧き出ている砂地の所に、自生している芋です。老人の話によりますと、この芋は鷺巣地区にしか自生していないとのこと。珍しい芋なので採られたのか、今は数株しか有りません。

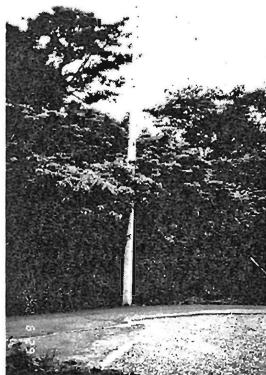
富有柿

富有柿は岐阜県特産の柿です。特に養老の扇状地は特に適地で鷺巣でとれる柿は非常に甘く、美味しいといわれています。

椎茸

鷺巣は山林が多く、山の掃除をかねて松林で椎茸栽培をする人が多く見られました。今は椎茸栽培も機械化されハウス栽培が多く見られるようになってきました。

昭和五三年昭和天皇が植樹祭に行幸されたおり、県からの依頼により藤田薫さんの生産された椎茸（品種岐阜四〇一号）が昭和天皇に献上されました。非常に栄誉なことです。



境の大松跡地



三本松跡地



瓢箪

孝子源丞内が滝の水を瓢箪で汲み、水がお酒になったという伝説の地に、平成三年度から町・農協が積極的に指導し養老町瓢箪振興会が結成され組織活動をしています。会員の殆どが驚巢の者で、「養老の瓢箪」が特産品・お土産品となるよう研究を重ねています。

三本松

養老谷の南、こどもの国の北東の伊勢街道沿いに大きな松の木が三本あり、街道を往来する旅人の道標となっていたものと思われまふ。今は無くなりまふたが、その松の在つたところを三本松と呼んでいまふ。

境の大松

驚巢の長屋野と石畑、白石、柏尾の境に大きな松がありました。この松を境松と呼んでいまふた。今は枯れてなにもありません。

与四郎松 三八

薬師山と若宮との境に、からかさを広げたようなひとときわ目立つ美しい大きな松があり村人たちは与四郎松（別名「からかき松」）と呼び親しまれていました。

この松の由来は、鎌倉時代の北条執権の頃、近江（源氏）と美濃（北条）との合戦があり、北条方についた美濃の大將頼頼（こうけつ）与四郎は、武運拙く無念の涙を吞んで薬師山の光明寺に逃げ込みましたが、責任を感じて、今の与四郎松の場所で割腹して合い果てました。部下か亡骸をその場所に埋め、このうえに一本の松を植えねんごろに葬りました。

後年、誰いうとなく与四郎松と呼ばれるようになりました。

約一〇年程前から枯れ始め現在その往時を偲ばせるほかない哀れな有様です。

また、光明寺では、末永く与四郎の霊を慰め弔っていました。鷺巢の薬師祭で、頼頼与四郎の追悼法要を復活して霊を慰めています。



九 日清戦争から太平洋戦争までの戦没者

日清戦争から太平洋戦争までに養老町で戦死された方は、日清戦争で四名、北清事変で二名、日露戦争で六八名、第一次世界大戦で二名、満州事変で四名、支那事変で一四六名、太平洋戦争で一九四名をかぞえています。

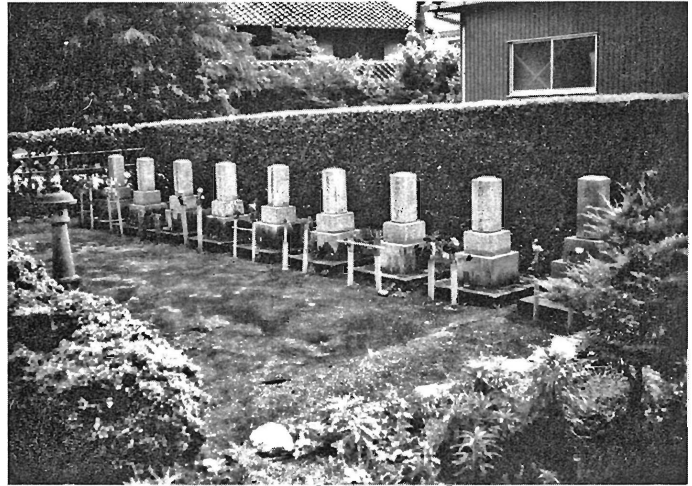
これらの戦いで、若い尊い生涯を国家のために捧げられた方々に対し、心から感謝と哀悼の意を表しましょう。

驚巢から出征されて戦死された方々は次のかたちです。

なお、太平洋戦争で戦死された方々の魂は専明寺の境内にお祀りしてあります。

日露戦争

戦没者氏名	亡くなられた日	亡くなられた場所
大倉 清蔵	明治三七年一月二九日	旅順
大倉 吾一	明治三八年 六月 七日	大連



戦没者の墓

太平洋戦争

四〇

戦没者氏名	亡くなられた日	亡くなられた場所
野村 保	昭和二〇年 四月一八日	沖縄伊江島
松本 豊	昭和一九年 七月一九日	南支那海方面
田中 信一	昭和二一年 二月一六日	ソ連邦チタ
田中 善六	昭和二〇年 七月一日	レイテ島
田中 末八	昭和一九年二月 六日	フィリピン方面
大倉 彦六	昭和一九年 九月三〇日	マリアナ群島
大倉 重雄	昭和二〇年二月 六日	牡丹江省
大倉 正三	昭和二〇年 四月一九日	ルソン島
田中 休一	昭和一九年 三月 八日	岐阜陸軍病院
安田 正造	昭和二〇年 六月二二日	各務原航空隊



神屋田の大河間

河間と水門

津屋川に堤防ができ東の水田に水が不足しました。このため、神屋田に河間がたくさんありましたので、この水を鷺巣の水田の水源とし、その付近の堤防に水門をつくったといわれています。

北の水門は、大きな河間が水源となっており、南の水門は、神屋田一帯の河間から湧き出ている水が水源となっています。

昔は、これらの河間から水がコンコンと湧き出ていましたが、今は水の消費が多くなったためか河間の水が細くなりました。

農地改革

終戦後の昭和二二年から始まった農地改革とは、政府が、地主の田畑の一定の面積を残して買い上げ、小作人に売り渡すことです。

上多度村にも、農地委員会ができ、この仕事を進めました。

鷺巣でも自作農が増え、農業の生産が高まりました。

なお、鷺巣から選出された農地委員は次の方たちです。

故藤田孝藏、安福養三、故野村重雄、藤田薫の皆様でした。



滝谷の落ち口



横井さんの竹藪

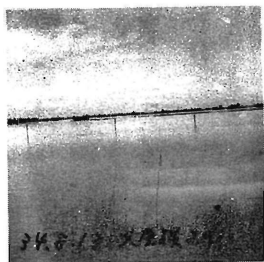
京ヶ脇谷・直江谷水利問題の解決

四二

昭和三二年、横井さん山に開拓団が入植する計画で、県・村・開拓連が測量を開始しました。鷺巣では、京ヶ脇谷・直江谷の谷先通称ガンド谷の水が鷺巣へできるだけ少なくなるよう遊水地帯として横井さん山の竹藪の開拓を阻止するため、県・村・開拓連が調査の折、村を守るため区民総出でムシ口簾をたて反対陳情を行いました。この反対運動が成功したことは村を水から守る心が区民全員にあつたためです。

滝谷水利問題の解決

昭和二六年に養老谷の砂防工事の計画が県から打ち出されました。その計画によると、津屋川への落ち口が、神屋田の蒲、即ち水田の水源となるところとなっていました。このため、村人は水田の水を確保するため、白山神社で計画変更の決起大会をおこない県へ陳情することに決定しました、県への陳情は故中島嘉樹氏が中心におこなわれ県と再三話し合い県もこの計画変更陳情を認め現在の鷺巣と飯ノ木境に変更になりました。現在神屋田の河間の水が水田を潤していることは、この問題解決に尽力された故中島嘉樹氏の功績でよるものと思われます。



伊勢湾台風の水害

13年の水害

暴風雨で大被害

昭和一三年の大雨で、養老谷が三本松付近で決壊し、新道が切断され電車の線路も砂で埋まり不通となり、二軒在家の南畑一帯が川原となりました。また、直江谷、京ヶ脇谷の水で四班の道路に大きな溝を作り通ることができなくなり、驚巢は、大きな被害を受けました。

この時の大水で大後の畑に鮒が泳いでいました。

集中豪雨と伊勢湾台風

昭和三四年八月一二・一三日の集中豪雨で、一三日根古地の牧田川の堤防が決壊し多芸輪中全域が水没しました。排水機も水没しましたので運転が不能となり二九日間もの長期間水に浸かったため、多芸輪中内の農作物は皆無でした。当然のことながら、輪中内の家も水没しましたので、驚巢へは、下笠の人たちが専明寺、公民館等へ避難されました。

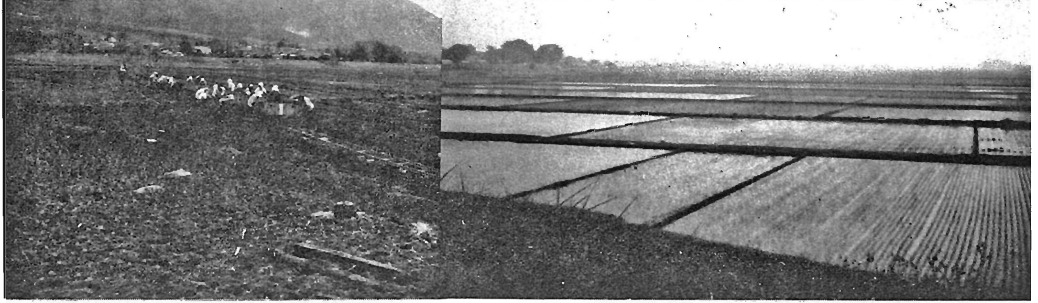
さらに追い打ちをかけるように、九月二六日の台風が非常に大きくその上この近くを通りましたので根古地の仮締切の工事現場が決壊し、八月に続いて水没しました。

少しとれたお米で、ご飯を炊いて食べても臭くて食べれなかった記憶があります。

また、収穫皆無の稲草をヤトウムシがザワザワと食べる音を聞き腹立ちを覚

耕地整理前

昭和三六年度 土地改良事業



耕地整理の作業

耕地整理後

えたものです。
四四

鷺巣公民館

昭和初期までは、今の公民館の所が養老谷の水防庫でした。篝火や杭・縄等が入れてありました。また、この水防庫を青年団の集会所として利用していました。

耕地整理

昭和三六年、上多度土地改良区による耕地整理が始まりました。

この事業は伊勢湾台風の災害復旧事業と農業経営改善事業とを併行して行なわれました。曲がりくねった用排水と畔道・大小さまざまな田圃が道幅も広く一枚の田圃も広くなりましたので作業能率がよくなりました。

この工事で、寺橋の東で海拔二五〇㍎であることがわかりました。





なかよしコート

昭和六二年、ゲートボールの仲間が四班の田中清子さんと話し合い鷺巢の公共施設にならば貸してもよいとの話がつき、ゲートボール仲間が各種団体と協議し、部落委員会に区の施設として利用するよう陳情しました。

部落委員で協議を行ない借りることに決定しました。

コート造りには、ゲートボール仲間が主体となり建設しました。

また、このコートを鷺巢なかよしコートと命名しました。

本年は町が、美しい自然づくりの一環として花いっぱい運動を行なっています。鷺巢もこの運動を行なうため、区の花壇をなかよしコートにつくり「美しい自然と、健康な区民づくり」を目指しています。

なお、平成四年度契約更改にあたり、地主と協議し更に五年間延長されることになりました。

鷺鷥巢甚句 四六

昔から鷺鷥でよく唄われている甚句です。歌詞はつぎのとおりです。

エー

わしの生まれは江州で 流れ下るは牧田川

向うにみえるは沢田村 市もないのに五日市

高うもないのに高田町 娘横目でちよいとみるが島田村

下でもないのに下高田 押しに押されぬ押越を

つまさきのぼりて石畑村 エーおそめ久松 明徳で

花の白石上にみて あすに待たれぬ京ヶ脇

鷺もおらぬに鷺の巢と なぜに小倉がはいらせぬ

ヨッホホホイ

エイ江州下りの鷺巢甚句じやものエー

トコ ドッコイ ドッコイナ

鷺巢区内案内図



案内図の説明

番号	項目	番号	項目	番号	項目
一	鬼面山谷五郎生誕地	一六	伊勢街道	三一	ホテイアオイ
二	鬼面山谷五郎父の墓	一七	みゆき街道	三二	水芋
三	鷺巣城跡	一八	津島街道	三三	富有柿
四	里伯翁の墓	一九	津屋川	三四	椎茸
五	専明寺・馬頭観音	二〇	土場	三五	瓢箪
六	八千代学校跡	二一	車屋橋	三六	三本松
七	白山神社・竜田神社・ 秋葉神社・覗き仏	二二	寺橋	三七	境の大松
八	八幡神社	二三	燈明橋	三八	与四郎松
九	燈明様	二四	新道橋	三九	蒲と水門
一〇	薬師山光明寺	二五	新橋	四〇	なかよしコート
一一	本堂跡地	二六	養老駅	四一	血取り場
一二	有道崖	二七	新道		
一三	古墳	二八	コガモ		
一四	木場・地藏堂・光明水	二九	ハリヨ		
一五	マンガン抗	三〇	セリ		

★ あとがき ★

高齢者学級「故郷探訪」の受講者で、各部落のイラストマップを作ることが決定し、鷺巢の沿革・人物・神社・寺院・教育・祭礼等を諸資料から調べ、また、受講生が知っている昔話を聞き、各項目を拾いだしました。

鷺巢は、歴史があり数多くの項目がありました。この項目に写真と概要説明があれば、鷺巢在住者の皆様に、鷺巢の今日での歴史や鷺巢に生まれた文化や伝統、人情を知って頂くことにより自分の住んでいる鷺巢に「誇りと愛着」が持てるとともに、鷺巢の発展と更に健全な青少年の育成の資料となればと願って作成しました。

この資料作成に、貴重な資料を提供して頂いた方々、更には、この編集に参加してご教示を頂いた方々に心からお礼申し上げます。

力不足で、十分意をつくした編集ができなかったことを心からお詫びいたします。また、区民の教育資料として取り上げていただき全戸に配布できるよう資金づくりにご協力いただいた町、上多度公民館長日比せい様、及び、鷺巢町内会長会の皆様に心から感謝申し上げます。

編集責任者 松本 建樹

◎ 編集者・編集協力者・資料提供者（敬称略・順不同）

野村 幹雄 藤田 薫 田中 通 田中 茂 田中 幸雄 田中 善七 野村 正美 山中 一男

野村 繁康 野村 日出男 野村 順一 大倉賢市

◎ 参考文献

養老町史 養老郡史 のびゆく養老 岐阜県地名大辞典 ふるさと上多度 創造 参宮常夜灯

本願寺史談 養老町の文化財

